

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	KID ACADEMY+宇治校		
○保護者評価実施期間	2025年12月4日 ~ 2025年12月24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2025年11月30日 ~ 2025年12月14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月6日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別カリキュラム、2vs1カリキュラム、小集団カリキュラムを組み合わせて、児童の特性や課題に合わせたカリキュラム提供の実施。</li> <li>専門性や様々な経験を有したスタッフが多く在籍しており、より専門的な支援の提供を行えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりの特性を見極め、発達段階や課題に合わせたオーダーメイドのプログラムを作成。</li> <li>日々のMTGやモニタリングにより、事業所全体で児童の把握に努め、児童に合わせて集団療育や個別療育を柔軟に対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム内容のアップデートを行い、より良い支援内容の拡充を図る。スタッフのスキルアップ。</li> <li>スタッフ増員を実施し、R8年より9名体制へ。</li> <li>専門職員（言語聴覚士、心理士、理学療法士）による専門的支援の拡大。</li> <li>保護者、園、行政等の関係機関との接触頻度向上。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や児童に合わせたスケジュール調整の実施。</li> <li>送迎サービスや柔軟な通所スケジュールを組めることで、これまで療育に通うことにハードルが高かった家族や物理的に通うことができなかつた家族へ療育を提供できていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎先を柔軟に対応することで、多くの児童に利用していただけるように対応。</li> <li>通所される児童のエリアに合わせて、送迎組みを行うことで円滑な送迎サービスの提供に務める。</li> <li>LINEでの保護者との連絡ツールを活用して、帰宅時間に遅れが出る際に伝達できるインフラの確立。</li> <li>利用児童が在籍している園に対し、送迎ルートの明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンセル待ちの児童が多くいるため、保護者との欠席連絡やスケジュール調整をより丁寧に行い、一人でも多くの児童に利用いただけるように対応。</li> <li>状況に応じて、姉妹校の開所も検討していく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用児童が多い中でも、スケジュールの調整や療育内容の工夫や事前準備によって、顧客満足度の高い支援及びサービスの提供を実施できていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できる限り保護者ニーズに応え、事業所全体でスピード回答を心掛けており、利用者が「利用に対するストレス」を感じないように対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ全体が同じレベルで保護者対応が行えるようスキルアップ及び意識を持って取り組む。</li> <li>スタッフ間でのコミュニケーションを密に取り合い、ニーズに応えられない際の代替案の提案やより利用者が通所しやすい環境にするべく、事業所一体でスピード感を持って対応していく。</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子分離型通所のため、保護者との接触頻度が低下してしまうこと。</li> <li>児童の様子を直接見ていただく機会がなかなか取れないこと。</li> <li>事業所の活動状況や訓練内容等を保護者へしっかりと届ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子分離型通所に加えて、送迎サービスを利用されているご家庭の中には、園迎えや祖父母宅送りの児童もあり、保護者にお会いできないケースが発生。また、送迎時にお会いできても、他の児童が同乗していると、時間を確保して、弊校での様子のお伝えやご自宅での様子等をお伺いすることができない場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月以降、スタッフが9名体制になることから、人員的に余裕も見込まれるため、療育風景の様子を撮影して保護者に具体的に共有できるようにする。</li> <li>下記の保護者懇親会や参観、勉強会のイベントを開催し、保護者との面談機会を創出し、双方向のコミュニケーションを増やしていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者懇親会や参観、勉強会や情報提供のイベント開催、保護者同士のコミュニケーションの場となるような茶話会等の交流の機会の創出。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な面談のみでは、保護者とお話しできる機会に限りがあるため、保護者様のニーズの把握や弊校での様子のお伝えをより行っていく工夫が必要。</li> <li>家族支援プログラム（ペアレンストレーニング）が実施できておらず、保護者やご家族の子育てのお悩み事をお伺いする機会が設けられていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の希望内容等をヒアリングし、必要に応じた機会を創出していく。</li> <li>定期的に開催ができるよう事業所の年間スケジュールを策定し、継続開催を目指す。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動系支援の拡充。</li> <li>カリキュラム内容のアップデート。</li> <li>安全面に対する一層の意識醸成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育スペースが限られることから、運動系の遊びや支援の機会が相対的に少なってしまっている。</li> <li>カリキュラムのアップデートが遅れてしまっている。</li> <li>昨今の様々な安全問題に対して、未発生の事情に対する予防や対策についての協議を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月より、作業療法士が入職することもあり、運動系支援を計画段階で更に取り入れていく。</li> <li>児童の利用スケジュールの調整等、療育スペースを上手く活用できるよう工夫する。</li> <li>本部と連携し、カリキュラムアップデートを実施。</li> <li>子供を交えた避難訓練や事業所の安全面の再点検。</li> </ul>